

私たちが巻き起こした賃上げの風をつかんで大幅賃上げ・底上げを 誰もが希望の持てる公正な社会を労働組合でいっしょにつくろう

本日、私たちは第65回臨時大会を開催し、すべての労働者の大幅賃上げ・底上げを掲げ、2022国民春闘を全力でたたかう方針を確立した。方針では、たたかいの柱に「4つの要求」を据え、その実現を図るための戦略として「4つのアプローチ」をたたかいの基調にして奮闘することを確認した。

大企業はコロナ禍においても莫大な利益をあげ、その内部留保は466兆円にも膨れあがったが、労働者の実質賃金は下がり続けている。私たちは、この世界でも異常な事態を可視化し、政府や財界も「賃上げが必要」と言わざるを得ない賃上げの風を起こしてきた。コロナ禍の痛みは、非正規労働者や低所得者ほど大きく影響を受けている。最低賃金に近い賃金で働くエッセンシャルワーカーも多く、大企業に溜め込まれた内部留保への批判は年々高まっている。

トヨタ自動車は、内部留保を27兆2000億円に積み増し、今期2兆8000億円（前年比27.4%増）の利益を見込んでいる。その内5984億円を賃上げや下請け単価の引き上げに回すだけで、トヨタ車づくりに関わる全労働者88万人に月4万円（年間68万円）のベースアップを実施できる。しかし、トヨタは「100年に一度の大変革期」を声高に叫び、さらなる労働者・下請け犠牲による高収益体制を築こうとしている。賃上げを非公開にして春闘に冷や水を浴びせていることは断じて許されない。8時間働けば誰もが人間らしく暮らせる公正な社会を実現するため、財界・大企業が社会的責任を果たすことを求めて声を上げよう。

コロナ禍で社会維持に必要なエッセンシャルワーカーの劣悪な低賃金・長時間労働の実態が浮き彫りとなり、私たちは政府がケア労働者の賃上げを打ち出す状況を作り上げてきた。しかし、現場からは「一けた足りない」「職場に分断を持ち込むな」と怒りがひろがっている。「エッセンシャルワーカーの大幅賃上げ・増員緊急アクション」を成功させ、抜本的な処遇改善と増員を実現しよう。

春闘を後押しする追い風は吹いているが、黙っていてもベースアップもケア労働者の賃上げも実現しない。職場と地域で学習と要求討議を丁寧におすすめ、未加入者にも声をかけて仲間を増やし、ストライキ権を確立して攻勢的なたたかいをすすめよう。

愛労連が結成以来、粘り強くとりくんできた運動が最低賃金全国一律1500円への好機を生んでいる。最賃署名に110人の与野党議員が紹介議員となり、昨年の総選挙では野党4党が最低賃金1500円を公約に掲げるなど情勢は大きく変化している。通常国会で全国一律最低賃金制の法制化をめざし、職場でも地域でも署名と宣伝を旺盛に展開しよう。

新型コロナ感染第6波が列島を覆い、いのちと暮らしの危機が襲いかかろうとしている。私たちは、コロナ禍に苦しむ労働者・国民に寄り添い、その実態を政治と行政に突きつけることで打開策を実現してきた。その経験から実感したのは、労働者・国民に寄り添う政治を実現することが必要だということだ。7月には参議院選挙がたたかわれる。自民・公明・維新などによる改憲策動を許さず、憲法をいかして国民のいのちと暮らしを第一にする政治を実現しよう。そのために市民と野党の共闘を各地で発展させ、新しい政治を実現しよう。

すべてのとりくみに私たちの要求と労働組合の見える化を位置づけ、4万人対話をひろげる中で組合員を増やし、2022国民春闘をたたかいぬこう。

2022年1月23日

愛労連第65回臨時大会